

## 大学院総合科学研究部、大学院理工学研究部 及び大学院生物資源産業学研究部を改組し、 大学院社会産業理工学研究部を設置

2017(平成29)年4月

大学院社会産業理工学研究部は、2017(平成29)年4月に総合科学研究部の総合科学部門、理工学研究部、生物資源産業学研究部が統合し、常三島地区の教育研究者のいわば本籍となる組織として、新たに発足した。この研究部に所属する教員は、出向して常三島地区の3つの学部及び教育部(大学院博士前期・後期課程)の教育に携わっている。

この組織改編により、それまでの大学院重点化に伴う研究部の位置付けの曖昧さが脱却され、教員組織と教育・研究の関係を明確化して時代の変化や社会のニーズ、研究テーマに応じて柔軟に研究組織が構成できる体制となった。我が国が抱える多くの社会課題に対し、先人の築き上げた伝統から学び、最先端の先進技術やテクノロジーを、社会総合科学、理工学、生物資源産

業学の各学域の確かな土台の上に、融合、連携、グローバル化、社会実装することを目標に研究・教育に取り組んでいる。

徳島大学大学院社会産業理工学研究部では、日々進行している第4次産業革命(Industry 4.0:情報技術を駆使した製造業の革新)に対して、産学官金の多様な業務の中核として活躍できる人材を輩出することを目指し、同時に今世紀に遭遇するであろう多様な課題(環境問題、災害、国内外の諸課題)に対峙する拠り所となる思想と方法論も提示できるよう務めている。その実現に向けて、学部教育においては人文系と自然系それぞれの専門性を高めつつ、研究部としてはこれまで以上に寄り添い、融合と協働を進めることで次世代への展望を社会に提示できるよう務めている。

